広報こすど
発行所　小須戸町公民館
発行人　宮崎純能
発行日　毎月1日
1部　5円

本町道路の整備計画進む

＝中央通りは巾員十六米に＝

警察庁舎の新築移転により、現旧警察庁舎は新しく本町の武道館として新発足する移設工事が進められている。これにより県道から役場庁舎前に至る中央通り線の一部新設と併せて、常備消防庁舎及び総合車庫の建設がそれぞれ年内に完成することとなった。また電報電話局舎の建設敷地も決定、特に一般住家の建設事業が極めて活発に行なわれ、西雁巻地区一帯は急激に新市街地としての面目を一新しつつある。小須戸町が新潟地区新産業都市建設の一翼を果たすためには、住みよい環境の住宅地区として、適当な条件を備える必要があり、それには先ず道路を整備することが第一である。しかるに市街地周辺における現道は、農道のままの巾員であり、小型車の交差さえも容易でなく、したがって産業経済文化の発展におよぼす影響は極めて大きい。

以上の観点から町は都市計画と併せて、幹線道の整備につき検討を進め先ず雁巻地区の将来計画の構想を纏め、道路用地の確保について先般重ねて関係者に協力を求めた雁巻地区を第一に計画した理由としては

(1)この地区が東京通産局と北陸農地局により工場適地として確認同意され工場の進出、都市計画、地域開発の拠点となるべき地区であること。

(2)町庁舎新築により行政の中心地となったこと

(3)住家の建設事業が極めて活発であり、新市街地として発展性が強い

(4)県道の自動車交通緩和のため迂回道として適地であること。

等であり、その計画内容はつぎのとおりである。

一、中央通り線の新設

巾員十六米

延長四三五米

東町県道から役場前に至る一二五米は年内に完了、更に直線に雁巻堤防を結ぶ中央幹線道路とし、将来は新津町梅ノ木地区に接続計画

二、保育所線の拡張

巾員十二米

延長四七三米

第一保育所より学校町通りに至る道路を拡張なお諏訪神社境内を通り本町通りに結ぶ計画

三、車庫線の拡張

巾員十二米

延長六〇〇米

泉町県道から学校町通りに至る道路を拡張

四、新道の新設

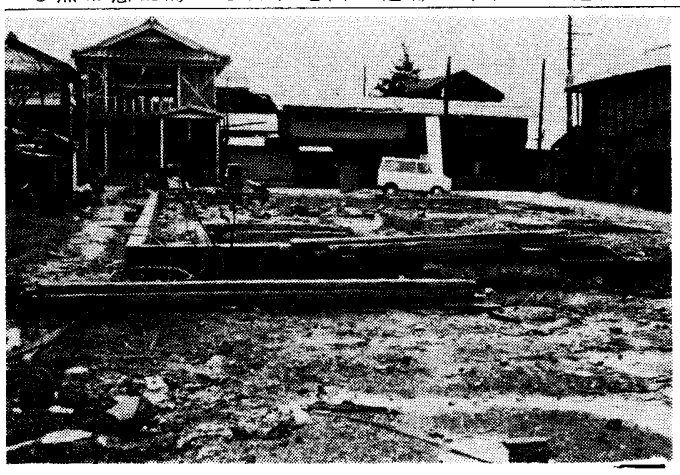
巾員十二米

延長五八三米

出雲町、新保境界地点から横川堤防を直線に結ぶ新幹線道の新設

五、横川、小須戸一号線の拡張

巾員十二米



役場前への道路に

第三日曜は家庭の日です

一家で楽しく

延長三七三米

中央通り線堤防側より小学校南側学校町通りに至る道路を拡張する将来は矢代田地区まで延長する計画

六、学校町通り舗装新設

延長六〇〇米

県道より横川住宅団地に至る舗装道の新設

七、堤防線の舗装新設

延長一三五〇米

雁巻堤防より桜木町に至る堤防線の舗装新設

舗装道新設は市町村道改築五カ年計画国庫補助事業として認定されたもの

また県道、土木事業は三条新津線全線が完了、小須戸町管内本年度県道改良及び舗装事業は次のとおりで、その事業費総額は約五千万円である。

一、公共事業

(1)道路改良

白根五泉線（横町東町地内）　二二〇米

外に用地買収、物件補償　一四〇米

(2)舗装新設

(イ)新潟小須戸三条線（横川、水田地内）　三五〇米

(ロ)三条新津線（矢代田天ケ沢鎌倉地内）　全線

(3)踏切除却

白根五泉線矢代田地内信越線小須戸踏切除却、跨線橋建設用地買収費六〇〇万円

二、単県事業

(1)舗装新設

(イ)新潟小須戸三条線雁巻地内一二〇米

(ロ)白根五泉線矢代田地内　一〇〇米

(2)道路改良

(1)新潟小須戸三条線ウデコキ地内突角剪除

旧警察庁舎改修で武道館に

警察庁舎の新築移動により、現在の警察庁舎は改修工事中でありますが、これが十二月二十五日に完成予定であります。

完成後は本町の体育施設の一つとして「武道館」として新発足をみることになります。

本町においては、この柔剣道熱が高く、県下にもその名を知らしめたのでありますが、近年施設や学校における柔剣道の教科外にあったことからすいたいをしてきたのでありますが、本町における町民づくり計画の一つとして、警察庁舎の新築とあいまって、旧警察庁舎は県より町に払い下げをうけ、本町における町民の体育施設として、名実ともに新しく柔剣道熱を高めるためにも、これを「武道館」として一般に利用してもらうことになりました。

改修が完了すると、柔道および剣道の練習場で四十帖の広間が三室（二十坪）できますので、一般の会議や集会もできるようになります。

この工事費は二〇〇万円で、事務室（四坪）準備室二室（四坪）物置（四坪　湯沸（三坪）シャワー室二基（二坪）となり、柔剣道の練習場には最も適したものとなります。

また旧警察庁舎は、役場庁舎の北側へ引き寄せて、現在の所は役場への道路として、改良されてゆくことになります。これにより低下してきた柔剣道熱をもう一度県下にその名ありと、知らしめるよう、本町での日頃の練習をつんでもらうようにと、この改良となったのであります。

いま町では柔剣道振興会を新発足させ、今までの柔剣道クラブは発展的解消をし、振興会として今後の町の柔剣道振興のため、練習場を中心にして、今後一層この面の発展を期するため、町民の皆様よりご協力をいただいている点もあります。

実際には小中学校でも剣道クラブが誕生して、小学校においては、現在放課後月水金曜日クラブを中心に練習をしておりますし、中学校でも又高校についても、クラブ活動を中心に活発な練習がおこなわれています。

柔道についても現在は公民館ホールに火土曜日の夜、振興会のOBまたは高校の現役選手が中心になって、後輩の指導にあたっております。

振興会が中心となり、施設の充実をはかるため今年度予算を二十五万で剣道の防具を八組分（大人用二組、こども用五組）新しく購入、柔道の畳を四十枚新調し、武道館完成後は一段とこの練習と技術の向上をはかってもらいたいものです。

移転により武道館に

町民新年祝賀会を盛大に

今年もいよいよ師走に入って、巷を吹き荒れる木枯しが、さむざむと身にしみるこの頃です。

あと一カ月で昭和四十二年の新年をむかえようとするこの頃、今年の総しめくくりに、お忙しいことと思います。

来年は選挙の年です。選挙を通して、町民の意志を政治に反映させることが、民主国家の国民の最大の特権であり、責任でもあることを思うとき「希望多き年」それは昭和四十二年であるといえるわけです。

いつの年の新年も、めでたいことに変りはないのですが、あと一カ月後に迫った来年の新年こそは、町民の総意を結集して新年を祝い、決意を新たにしなければならないのではないでしょうか。

この意味から、一月元日午前十時、恒例の新年祝賀会を役場三階において開催の計画をしておりますので、町民の皆さん多数お誘い合せの上ご参加願いたいと思います。

昭和四十二年の元旦にあたり、みなさんで新しい年の抱負を語り合う、もっとも良い機会だと思いますので、多数のみなさんが、それぞれの立場で話し合うことを希望いたします。

また、例年各部落において、新年祝賀会を開催されておられるようですが、町主催の「町民新年祝賀会」を盛大に実施するために、各部落町内はできるだけ午後にしてもらい、午前十時からの会にご参加願いたいと思います。

開催期日　四十一年一月一日

午前十時開会

開催場所　小須戸町役場三階

会費　一人一五〇円

申し込み　各地内とりまとめのうえ、公民館または役場総務課にお申し込みください。

〆切り　十二月二十六日まで

※〆切り後ですと、名簿にのりませんので早めにどうぞ。

年末郵便にご協力を!!

年末の郵便物は、平常の月の三倍から八倍にふえて、ぼう大な数量になります。このため長野郵政局では、いろいろの施設を拡充強化し、スムースに運ぶよう万全を期していますが、次の事項についてご利用者のみなさんの、ご理解あるご協力をお願いいたします。

一、小包

○年末小包は、十二月十五日までに。

○包装はしっかりとして内容品をじゅうぶん保護できるように、しっかり包装し、ヒモをかけられるものは十文字か「キ」文字にかける荷札は二枚つけてください。

二、年賀状

○年賀はがきは十二月二十二までに。

○年賀状の特別取扱いは十二月十五日から始まります。元旦の配達にまにあうように、十二月二十二日までに、だしてください。

○はがきの表面に「年賀」の表示をし、まとめて束ねてだす場合を除き私製はがきを使う場合は、一通ごとに「年賀」の表示をしてください

○年賀状をだす場合は、同じ市町村内あてのものと、他市または他県のものと簡易な区別をつけて、束ねたものにチラシや適宜の紙片をつけてください。チラシは各郵便局の窓口にあります。

○省略した住所や一部の書き違いのため、毎年たくさんの迷い子郵便がでています。必ず番地肩書まで、あて名はとにかく正確に。

○官庁、会社等で年始に休業されるところは、ご希望により年賀状の年内配達もできますので、配達局へお申しでください。

各家ごとに表札、受箱を

〃ゆうびん〃と投げこまれた、あなたへの手紙が、風にとばされたり濡れたり、見えなくなったりしたことはありませんか——

表札がでていないため間違ってよそへ配達されたりしたことはありませんか——

郵便局では、このようなことのないように、家ごとに表札（なるべく家族名を書いたもの）郵便受箱の掲出をお願いしております。

また、みなさんのご便宜をはかるため、つぎのような表札と受箱をあっせんしております。この機会にぜひ掲出していただくよう、おすすめいたします。

表札（プラスチック製）

氏名無記　一〇〇円

氏名記入　一一〇円

受箱（鉄製）　四八〇円

タバコは町で買いましょう

十四%が町に税金としてかえります

小須戸風土記

力士漫筆

柏　大治

「お相撲さん」というとあの人並みはずれた堂々たる体格を思いおこしますが、いったい何を食べているのでしょうか、と考えが頭の中を走る。

越後は米所であるために、お相撲さんも巡業をするのが、大すきのようです。

小須戸の町へお相撲さんが巡業に来たのは大正時代にはいってから前後四回程であるようです。

ことにこの大正六年に小須戸町にお相撲さんが巡業に来たときは、矢代田駅におりた相撲さんを見るに、いづれおとらぬ怪物揃いで驚いたものです。たっぷりした男髷、紋付袴で威儀正しく、人力車に乗りこんだ光景は壮厳というか実に立派なものだったとおぼえています。このときの一行は大鳴門、高見山の一行でした。このような大将株の相撲にくらべ「褌担ぎ」というべき相撲さんは、手に手にトランクを持ち素足で汗と泥まみれの浴衣で、人力車のあとから歩いて行く光景をくらべて、子供心にも異様な感じを受けたものでした。

このときの土俵は、信濃川地先の村貞商店のところと思います。

そのころは、ポンポン蒸気船が利用されて、見物に来る者や、農家が暇の時で、近郷近在から相撲見物にわんさと押しかけ、大入満員の盛況であった。この相撲さんを泊めた尾崎屋で困った。宿屋の軒下の入口が狭いので、お相撲さんは、どうしても家へ入ることができず、ついに二階から出入りするといった珍事もあったし、宿屋では二階で二・三十貫もある巨人が二・三十人も泊まったんで家はゆれるし、二階が落ちないかと心配したものです。

そんな時お相撲さんはどうして、あんなに肥えたのだろうと思い、お相撲さんに聞いてみたら、「お相撲さんは何を食べて大きくなったの」と自分ながら勇敢に質問しましたら、その時の答えは「おかゆを毎日一升五合に、おかずは梅干しを食べて土俵で相撲をとるとでかくなる」といった。

今になってみれば、たわいのない話しですが、その時は、大きくなりたくて真剣でした。

やはり食事というものは、正しい時間に正しい糧を食べて、運動をすれば、みんなお相撲さんのようになるのではないだろうか。現在のように食生活や体育関係施設などの揃っているときでは、みんながお相撲さんのような感じがする。

ニンジンのような体格より、ネリマ大根のような体格が良いでしょう。しかし人間は、その人その人の体格が、一番良いのであろうと感じます。

みんなで防犯 明るい才末を

＝楽しい正月をすごすために＝

才末に入り、なにかとお多忙のこのごろと思います。年末はとくに犯罪が多くあるときです。このときにあたり、みんなで注意し合いながら、無事故で楽しい正月をすごすように、町民のみなさん、ぜひ次の点についてご注意ください。

◉ご家庭のみなさんへ

一、まず戸締りの用心をカギは完全に役立つものを使用しましょう。

二、現金は、わけておくようにし、万一の時は被害を少なくする一つの方法です。

三、うますぎる話しに用心、口車にのせられぬように、まただまされぬように。

四、混みあうところではスリや万引きにご注意ください。

五、火の用心はもう一度人が寝たころに、火が目をさます。用心が第一です。

「火の用心を願います」

◉学校や官公庁のみなさんへ

一、あなたの机の引出しは いかがですか。お金や貴重品を入れ忘れてはおりませんか？おたがいに注意しましょう。

二、戸締りはよいか、見廻りはよいか注意しましょう。

三、来訪者にご注意を。見知らぬ人に注意して特に学校の休み中などこどもの出入りにも一応注意をしてください。また官公庁の休み中は特に「キケン」ですから日直、宿直はご注意ください。

◉銀行、郵便局のみなさんへ

一、戸締まりはよいでしょうか。また施錠はよいか見廻りましょう。

二、宿直員の増強と、職場を楽しい場にするためにも、職場を守りましょう。

三、窓口や待合室、また面会など、不審の人物などに特にご用心ください。

◉町内部落のみなさんへ

一、防犯灯で明るい町をつくりましょう。

二、少年少女の非行防止に、ご町内からも愛の手で。

三、火の元の点検も町内で自主的にしましょう

◉世界の願い交通安全

一、運転者には酒は絶対にのませまい。一つぱいが事故のもと。

二、注意一秒、けが一生

命おとすよりスピードをおとしましょう。

十二月は人間も品物も、お金も忙しくなります。こんな時こそ、わが身の安全、平和な家庭づくりのために、防犯活動、交通安全活動に、ご協力ください。

火の用心

（保健衛生課）

血液検査で 幸福な家庭を

近年各地において悪性梅毒の増加の傾向にあり、とくに若年層に多くみられ、性病の流行は新たなようそうを示しつつあります。

性病予防対策の改善強化をはかるため、性病予防法の一部が改正され、医師の性病患者に対する届出制度の合理化、婚姻時における梅毒血性反応についての積極的な受検さらに婚姻をしようとする者および妊娠した者の梅毒血性反応を受けた場合、費用が公費負担となり、受検者は無料で検査を受けられることになりました。

性病撲滅のため左記の対象者は、全員受診されるようお知らせします。

㈠ 対象者

イ 婚姻をしようとする者。

ロ 妊娠した者。

㈡ 検査場所

県立小須戸病院

注：受診される時は役場で無料受診券をもらってから受診ください。

（保健衛生課）

家族が一同に 話し合いを

家庭の日を大切に

すべての青少年を、よりよく育てることは、私達の心からの願いであります。このため町では青少年問題協議会が中心となり「新しい家庭づくり」にこの願いをこめて、この運動をすすめております。この趣旨と、この大切な家庭づくりと青少年対策と、青少年健全育成のために、各ご家庭のご協力を得たいと思います

◎月一度は家庭で顔を合わせましょう

家庭は青少年のみでなく、家族全員の安息、健康保持などの教育的はたらきをするところですから、人間愛、正しく強い人をつくるためにも、家族全員で協力しあって、家庭は楽しいものであるということを、作りだすことが大切です。

このために「明るい家庭づくり運動」をすすめていくためにも、自主的に「第三日曜は家庭の日」と定め、家庭生活が健康で、リズム的な青少年を育てるにふさわしい所となるために、おとうさんは、あまり夜はおそくならず、また大量の酒もつつしみ、一家全員が顔をそろえることが大切ですこれにより、意志の疎通感情の融和をはかり、おたがいを理解し、協力しあうようなムードをつくることが大切です。

「こわいおとうさん」ということや「ぐちっぽいおかあさん」という観念が、いつとはなしに取り去られることだと思います。このためにも大事なおとうさんが、家庭の中心でなければなりませんとかくしつけは、かあさんだという世の父親たちから、この大切なこどものすがたに、もっと目をむけてもらうことだと思います。そのためにも、せめて第三日曜日には、公的私的な会合はできるだけさけて、おたがいに家にいるように努めましょう。

◎話し合いましょう

おとうさんや、おかあさんが、こどもと話し合うことは、あまりありません。いつでも一方的な話しの場合が多くて、話しのやりとりがありません。親と子が相互に理解しあうような、話し合う機会をつくることが大切です。「明るい家庭」とは胸にわだかまりなく話し合えることが大切なことではないでしょうか。これが健康な、家庭生活の土台となるものだと思います。

◎楽しむ家族に

おうげさなものでなくいつでもあるような、ごく自然の中で、今日のできごと、家族の誕生日をきっかけに、全員で食卓をかこむことなどが、もっとも意義深いものがあると思います。

ただその際「家庭の日」の意見なども話し合い、その中でこの意識づけをすることも、家族に対しては、大切なことだと思います。

◎こどもの相手に

こどもの年令にもよりますが、父親はある時は遊ぶ友達であり、ある時は相談相手としての友達であるためにも、日頃からよくこどもたちと話し合い、なにを望んでいる我が家のこどもたちであるかを、知ることが大切であります。

また家中で楽しめるリクリエーションをみつけだし、我が家のスポーツと定め、楽しくすごすことも大切です。

◎協力する大切さ

ふだんそれぞれ家族はそれぞれの立場で仕事や学校などに別々のくらしをしています。せめて月に一回の「家庭の日」にはひとつの仕事をみんなで協力しながら、するとか家庭内の仕事を分担してするというように。

たとえば、これからの年末の大掃除や冬がこい雪おろしなど、いろいろあると思います。

こどもは、年令相応によって、両親の生活態度をみながら育ってゆきます。健康で明るい家庭づくりをするうえで、一番大切なことは、家庭の主導権を握っている人たちの態度や行動が、非常に大きいことを忘れてはなりません。ここから明るい社会をつくるための第一歩がはじまります。

父とこどもの楽しいとき

青年団に 期待をする

（私たちの意見欄）

最近、どこの町でも、青年学級、婦人学級という自主的学習形体ができておりますが、私たちの町でも数ヵ所で婦人学級が開かれているとのことであります。

ところで、十一月号の「広報こすど」第一五八号には、青年団活動の報告と今後のあり方についての記事がでておりましたが、私が感じたことを書いてみました。

青年団活動が、やりにくくなってきたということですが、考えるに本当に「いま青年として何をしてゆくことが大事か」ということの話し合いがあってのことなのだろうか。青年が集まらないから社交ダンスをするのだとか、フォークダンスをする会を作ったとか。

実際に今必要であるとする青年の要求であれば例えば、商工会青年部やその他の青年部活動は、この町でもおこなれております。

だから要求を知ることが大切で、これを知ることが、青年団事務局の仕事ではないでしょうか。青年団員の募集も大事であろうが、まず、今目的のある青年団活動が進められているかと、青年団自体でふりかえってみることが大切ではないのだろうか。

また青年の日の制定も良いことでしょうが、それよりも実のある学習をすることが先決ではないだろうか。婦人会や老人クラブなど、自主的に学習を進めている現状をみて、次の世代を作る青年たちが、もっと前むきで学習グループ等に取り組むことが大切ではないのだろうか。

青年の使命を忘れずにがんばってもらいたい。

いらないのですか 農地給付金 請求を

昭和四十年八月二十日より、請求書受理してきました「農地被買収者給付金請求書」の受理の〆切期限が、明四十二年三月三十一日までとなっております。それ以後に請求されても、給付金の該当者にはなれませんので昭和二十二年より二十五年までの間に、農地を国に買収された旧地主で、まだ請求されていない方は、すみやかに請求されるよう、お知らせいたします。

詳しくは役場内（電話六六〇番）農業委員会にご連絡願います。

税だより

新津税務署では、このたび「租税教室」を常時開設しましたのでご利用ください。

1 税金のことでお知りになりたいことがありましたら、いつでも気軽に税務署の租税教室においでください。

2 税金についての説明会講習会をご希望のときは、税務署の租税教室にお申し込みください

3 高校生のみなさんグループで税金の研究をなさるときには、税務署の租税教室をご利用ください。

4 税務署見学をご希望のときは、租税教室にお申し込みください。

あなたの家庭の幸福を守る　三つの用心

◉ 交通の用心

◉ 戸締り用心

◉ 火の用心

届け出は おくれず早く ありのまま

電話（小須戸局）74番

警察緊急 110番

原稿募集について

「広報こすど」の原稿を募集いたします。

建設的な意見、ご要望おたずねなど、小須戸町公民館広報編集部あて、投稿くださいますようにお願いします。

また「めいわくシリーズ」「ナギサ」欄などの原稿も投稿願います。

雑感

夜学の生活と愛の鐘

九時のチャイムが流れだすころ、僕たちは一層ファイトが盛りあがる。じっくり学んだのち、夜空に守られて帰るときの壮快さは、なんともいえない。そんなんなとき、二階にも錠をしましょう。宿直をなさるみなさんは「泊まっただけ」では何もなりません。充分に注意をしてください。

見知らぬ人に注意して楽しい勉強場があるのに若者は、どうしてもっと目を向けようとしないのだろう。なぜ仲間がもっとこようとしないのだろうか 僕はわからない。

昼は仕事、夜は勉強、これは人から見れば辛いこと、たいへんなことと思われるだろう。しかし実行している僕たちにはそれほど苦痛なものではない。

五時に知らせる役場のチャイムが鳴る。

このときから、僕たち定時制高校生の日課がはじまる。

今日一日無事で働いたことを感謝して、急いで家へ、休む暇もなく制服に着替える。制服を着ると、このひきしまった気持ちで一路学校へ勉学に精をだす。

授業が始まると、それぞれノートの上をしきりにペンが走る。サラサラ調子よくすべっていると思っていると、その中には昼の疲れが出てか、ペンがノートの上に横たわることがある「おい、そこに横たわっているペンしっかりしろ！」と隣のペンが励まし、力づけてくれる。ペン同志がささやき助け合っている。

そんな風景を見ると、なにか胸がスーとして透き通ってくる。そして各々のペンに気迫が充ちあふれてくる。

ないのである。むしろ学校へこないと自分に対して申し訳がないような気がする。小須戸町でこれほどよい勉強の場はないと思う。

町民のみなさんの中に「うちの娘は、夜出すことは危険だから、出すことはできない」と考えている親ご衆があるとすれば、あえて僕は申しあげます。

「自分の娘が可愛いくば娘の将来のために、時代に適した教養と知識を身につけさせ、立派な娘にしてやろうとは思いませんか。より広い視野と、豊かな人間性を身につける道を歩かせて、娘の幸せな一生を、はかってあげることが、親ではないですか」と……

僕たち定時制高校生は昼働き、夜学ぶという悪条件の中で、くじけることなく強く生き、二度とこない青春を、勉学にぶつけ、さらに自分というを、みいだすことに、若い人間をみがこうと、目標を立て、その目標にむかって日夜頑張っているのです。しかしこの目標もそれは何よりも代えがたい人生の宝なのである。

このように若い僕たちは、若さを勉学に生かし人間形成につとめて、僕らの郷土、小須戸町を僕らの手で発展、向上させたいものである。

くだらないことで、いつまでもいい争ったり、はかない享楽にうつつをぬかしたりすることなく美しいメロデーで、時を知らせるチャイムのように、味と若さのある町にしたいものだと、考えている。

新津高校小須戸分校　目黒　文男

崩れさろうとするときもあります。そんなときはいつも級友が励ましてくれ、また励まされたりで目標にむかって努力し合う。みんなが励まし助け合って、目標への心構えが、だんだん固まってくる。そこに、みんなの心と心の触れ合いが感じられる。そこに本当の、その人の姿が見られる。

向上心旺盛な、若人の意気を感じ合い、人を愛し郷土を愛するという気持ちが湧いてくる。

心身共に力一杯やりぬいて、苦労の中から喜びを、みいだすことに、若さの意義があると思う。

その喜びが、たとえ小さなものであったとしてもそれは何よりも代えがたい人生の宝なのである。

このように若い僕たちは、若さを勉学に生かし人間形成につとめて、僕らの郷土、小須戸町を僕らの手で発展、向上させたいものである。

くだらないことで、いつまでもいい争ったり、はかない享楽にうつつをぬかしたりすることなく美しいメロデーで、時を知らせるチャイムのように、味と若さのある町にしたいものだと、考えている。

新津高校小須戸分校　目黒　文男

冬隣句会

小須戸町俳句同好会

朝寒の言葉に馴れし昨日今日　芳人
吹き荒れし一夜の風に散る銀杏　竜朗
絶え絶えに細き虫の音冬隣り　碧水
親ゆずり炬燵櫓の焚げあとも　杏水
白菜の巻きおくれしを結びけり　喜雨
洗われし大根の山風冷えくる　香月
鰯雲ひろごりし根の雨となる　樫夫
秋深し石にいつもの老父憩う　太浪
山寺の蟬塚紅葉すオデン喰う　流水